

沖縄県内の畜産農家の皆様へ

沖縄県では中東情勢緊迫化により、影響を受けている畜産農家の皆様への支援を行っています。

飼料価格高騰に対する支援



自給飼料生産資材の低減に向けた取組

牧草の早期乾燥
技術について

ストローチョッ
パー等を用いた、
牧草の乾燥時間
短縮技術。

ラップフィルムの
薄巻きについて

ラップサイレー
ジ調製時のラップ
フィルム使用量
の低減方法。

飼養管理の
技術支援について

青刈り給与時
における養分要
求量や摂取量
等の技術支援。

放牧飼養について

放牧飼養時に
おける養分要求
量や摂取量等の
技術支援。

ラップを用いない
粗飼料の生産・保管

ラップを必要と
しない粗飼料の
生産・保管方法。

配合飼料価格差補助緊急対策事業

事業概要

ウクライナ情勢や円安等により、依然として配合飼料価格が高止まりしていることから、畜産経営が維持できない危機的状況が続いている。そのため、令和8年度においても配合飼料価格高騰分の一部を補助し、畜産経営を維持するための支援を行う。

【総事業費】1,302,876千円

【補助単価】下記のうちいずれか低い額

- ①R4年度農家負担額から当該四半期飼料価格への上昇分1/2
 - ②R7第4四半期:3,158円/t
R8第1四半期:7,871円/t、第2四半期:5,903円/t、
第3四半期:4,427円/t、第4四半期:3,321円/t
- 但し、その他、国の支援策が講じられ、補助額が重複する際は単価を調整する。

R8年度実施内容

県内畜産農家の飼料購入費の一部補助を実施

【対象】

配合飼料価格安定制度に加入している農家で、R8.3～R9.2までの飼料購入数量

(R7加入実績：農家戸数1,621戸、対象数量222,028t)

事業実施の目的・効果

【目的】

農家の実質負担額の一部を補助することで、飼料費負担の急増を緩和し、県内畜産農家の経営維持を図る。

【成果目標】

R8.3～R9.2までの飼料購入費に対し補助金を交付する。

年度毎の取組

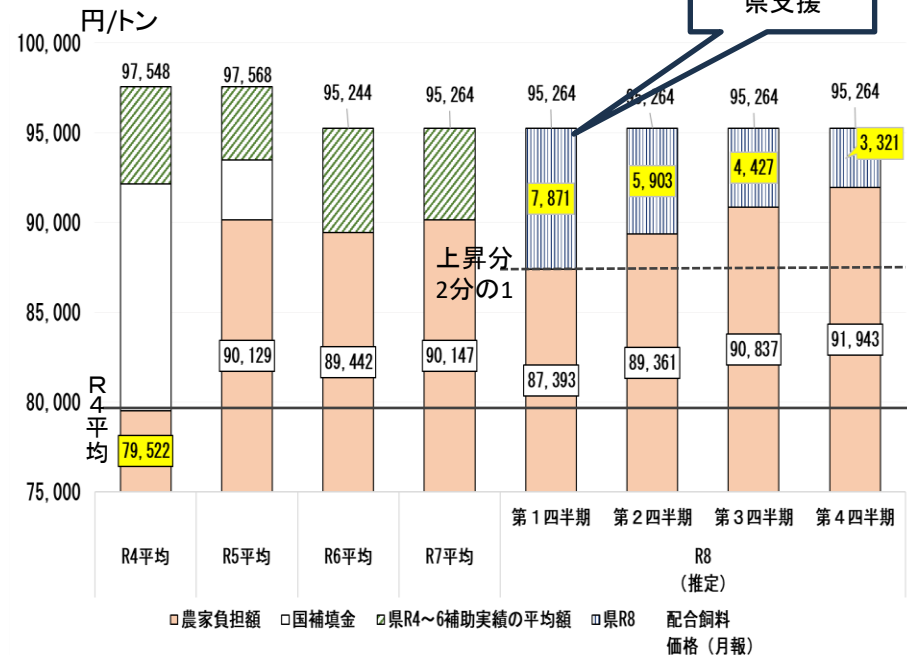
R8年度

農家の実質負担額の一部補助

イメージ図

下記のうち、いずれか低い額を補助

- ①R4年度農家負担額から当該四半期飼料価格への上昇分1/2
- ②補助単価上限額



牧草の早期乾燥調製技術について

概要

本県は降雨日数が多く、乾草を作ることが難しい気候条件です。

ディスクモアで刈取後の牧草に「ストローチョッパー」を用いる事で**牧草中の水分を早期に下げることが可能**になります。

上記により「乾草」の生産性が向上し、ラップフィルム使用量の低減が図れます。

効果

細断することで水分量の減少が早まる！

表6 乾物率の推移 (トランスパー)

調製日 2006.7.4~5		S区 乾物率	D区 乾物率
1日目	9:00	30.5	31.1
	10:30	42.3	32.4
	15:00	84.6	59.0
	17:00	86.0	64.8
2日目	9:30	85.6	71.3
	13:00	93.3	84.6
	15:30	92.7	86.9
収量・DMkg/10a		687kg	691kg

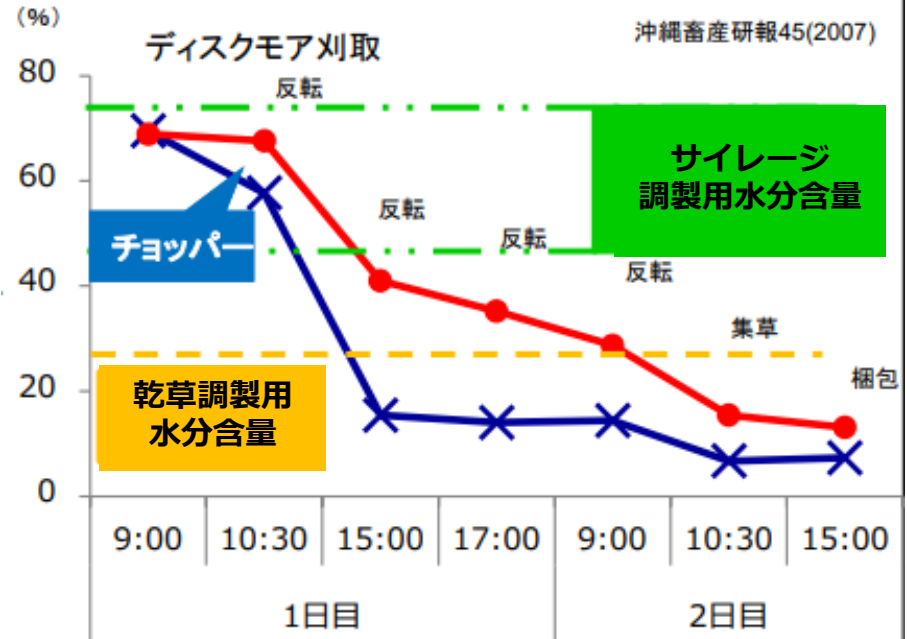
表7 乾物率の推移 (ガットンパニック)

調製日 2006.7.27~28		S区 乾物率	D区 乾物率
1日目	9:00	21.6	19.6
	10:30	27.6	22.9
	15:00	50.3	38.7
	17:00	52.3	42.3
2日目	9:30	72.0	46.6
	13:00	80.6	61.6
	15:30	80.7	63.5
収量・DMkg/10a		487kg	444kg

沖縄県畜産研究センター試験研究報告2007より

ストローチョッパーを細断に用いる (S区) ことでディスクモアのみ (D区) より乾草を作る時間を削減できる！

イメージ



刈取後の牧草中の水分率の推移 (7月の事例)

赤: 通常の乾草作成の場合

青: 刈り取り後に細断を行った場合

通常、牧草は刈取2日~3日後に乾草調製に適した水分量になりますが、刈取後に細断を行うと、**1日目の午後には乾草調製に適した水分量**になります。

ラップフィルムの「薄巻き」による ロール生産

概要

中東情勢緊迫化により、自給飼料生産資材の調達に影響が出ています。

一つの対策としてラップフィルムを「薄巻き」することで使用量の低減を図ることができます。

一度、ロール作成にかかる「巻き数」を確認し、ご検討下さい。

効果

ラップフィルムの巻き数を減らすことで、ラップフィルム1本あたりロールの個数が**約20%増!**

薄巻き



ラッピング

【畜研センター事例】

作成条件

- ・ 3回巻き6層重ね→2回巻き4層重ね
- ・ 重量：約350kg～400kg
- ・ 直径：120cm

イメージ

注意点 (デメリット)

- ラップが破れやすい (外部からの衝撃、害獣など)
- 酸素侵入のリスクが増え、腐敗しやすい
- 保存期間が短くなりやすい (3カ月でカビが生える)

「薄巻き」で作成したロールは早めに給与を!



薄巻きのラップサイレージ
(2回巻き)



フィルムが
破れてしまった事例

「青刈り給与」による飼養管理技術の支援

概要

中東情勢緊迫化により、自給飼料生産資材の調達に影響が出ています。

給与する粗飼料の一部でも「青刈り給与」をすることでラップフィルム等の使用量低減が図れます。

また青刈り給与と乾草・サイレージ給与では、給与量が異なるため、飼料設計等により飼養管理方法を支援します。

効果

ラップフィルムや乾草の資材費や調製時間を削減できる！

メリット

- ・栄養価が高く、βカロテンを多く含む
- ・嗜好性が良い

デメリット

- ・水分が高く、長期保存が困難
- ・収穫作業が重労働

イメージ

成雌牛450kgの一日当たりに必要な乾物摂取量：6.04kg

青 草 (水分80%)	30.2kg
サイレージ (水分60%)	15.1kg
乾 草(水分15%)	7.1kg

※必要な乾物摂取量を全て粗飼料で充足させる場合

上の表は養分要求量を全て粗飼料給与で補った場合の摂取量です。
実際は農家の実情に合わせて、粗飼料と濃厚飼料の割合が異なるため、**個体や目的に沿った飼料設計が重要**となります。



青刈り給与の様子

放牧飼養について(離島向け)

概要

中東情勢緊迫化により、自給飼料生産資材の調達に影響が出ています。

効率的な**放牧飼養**（**輪換放牧**など）をすることでラップフィルム等の使用量や経費の削減が図れます。

効果

ラップフィルムや乾草の資材費や調整時間を削減できる！

メリット

- ・牛舎での給与量・時間短縮など低コスト化
- ・牛の健康状態の向上が期待される

デメリット

- ・高度な草地管理技術が要求される
- ・広大な草地が必要

イメージ



舎飼いでロール給与から



放牧飼養の様子

ラップを用いない 粗飼料の生産・保管方法について

概要

中東情勢緊迫化により、自給飼料生産資材の調達に影響が出ています。

ラップを用いない乾草などを生産し、**保管場所**を確保することでラップフィルム等の使用量低減が図れます。

早期乾燥技術と合わせて、**乾草の生産性向上**が図れます。

効果

ラップフィルムの使用料を低減できる！

メリット

- ・ラップフィルム使用量の低減

デメリット

- ・保管場所の確保が必要
- ・十分な乾燥に時間を要する

イメージ

注意点

- 水分含量 **(十分に乾燥させる)**
- 通気性が良い場所に保管する
- 降雨に晒されないようにする
- 小動物の侵入を防ぐ

刈り取り時に十分な乾燥



雨水が入らないようにする

相談窓口

○飼料費の補助について

畜産課 098-866-2269

○自給飼料生産資材の低減に向けた技術支援について

北部家畜保健衛生所 0980-52-2939

中央家畜保健衛生所 098-945-2297

宮古家畜保健衛生所 0980-72-3321

八重山家畜保健衛生所 0980-84-4111

畜産研究センター 0980-56-5142

○燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口の設置について

農林水産省相談窓口

(URL: <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/260331.html>)

○農林水産省 中東情勢関連対策ワンストップポータル

農林水産関係の支援策の情報・相談窓口

(URL: https://www.maff.go.jp/chuto_josei.html)